

■議会のあり方

●現在の状況

- ・ 年4回開催。開催月と大まかな内容は、6月（決算）、9月（予算措置前）、12月（予算決定）、3月（年度末）。
- ・ 議員の所属委員会は2年に1度変わる。
- ・ 委員会は、総務、文教・厚生、産業、建設の4つ。
- ・ その他に「広報特別委員会」があり、議会だよりを作成している。この委員会も、同様に2年に1度、所属議員が変わる。
- ・ 次回の議会は、6月18日から開催される。
- ・ 現在の議員数は24名だが、来年の9月から18名となる。
- ・ 「議会改革特別委員会」（議員9名で構成）は、来年の9月に向けて、さまざまな案件を検討している。
- ・ 議会のHPがある。
- ・ 議会だよりは全戸配布している。

■議会のあり方（そもそもの存在意義）

- 議員には、中標津町をもっと住みよい町にするために、町民とともに、もっと勉強してもらいたい。
- 収入が少ないので、勉強しろと言っても無理があるのではないかな？
- 年間230万円の給与がもらえて、拘束されるのは45日間ほどである。そうすると1日5万円の日給となる計算である。それは、高いのか？安いのか？
- 外国の事例では、ボランティアで行なっている国もある。議員職というのは、収入をもらうものなのか？
- 提案権はあるが執行権が無い。現在の日本の仕組みの中では、議員や議会の出来ることは限られており、難しいのではないかな？
- 現在は、チェック機能のみである。その内容は「予算の審議」と「行政運営に対してのチェック」をしているはずだが、本当に機能しているのか？
- そもそも議会は必要があるのか？という議論になってしまうので、つらい。

■議会のあり方（パートナーシップ提言書より）

①まちづくり懇談会など

- お茶懇談会をする議員を作る。町民側から仕掛ける。
- 選んだ側としての町民の責任がある。説明を受けるようにする、議員の働きをチェックするなどが必要。
- 後援会の責任もあるのではないかな？後援会が懇談会などを実施するなどが必要。
- 年に何回か固定して「討論会」を開く。現在は選挙時期しか行なわない。
- 議員さんは情報を持っている。有権者に知らせる努力が必要。町政報告会などを開催してほしい。テーマを絞れば可能なのではないかな？
- 議会側からの働きかけが欲しい。歩み寄る場づくり（拠点と仕組み）が必要。

②委員会の傍聴

- 傍聴については、委員長の許可が必要。
- 自由な意見を述べられなくなるので、議員は嫌がると思う。

③議会放送など

- 個人の撮影は許可が必要。現在は固定のカメラからの撮影だが、役場の1階で会期中

の映像を見ることが出来る。

- 支所などでTVで流す。
- インターネット放送で見ることができるようになる（栗山町、芽室町で実施）。
- FMコミュニティ放送で流し、聞くことができるようになる（現在中標津町でも活動している人が存在する・防災情報を流すなどを検討中？）
- 予告が無い（何が議案で、何をいつ審議するのか？が分からない）。

共有された意見

- 当日傍聴できない町民のために、VTRを後日借りる方法があると良い。
- 音声テープの貸し出しを行なう。
- 回覧板、チラシなどで質問内容など、予告をPRするのはどうか。その結果として議会だよりを読むようになる。
- 議会のHPで予告をしてほしい。
- 新聞記事に掲載を頼む。議会の開催日時だけではなく、内容も含むようにする。

④議会傍聴サークルの組織化

- 基本的には思いつきで行くことが出来る。議会事務局で一覧表に書き込めば30席が先着順で誰でも傍聴できる。
- 別海町で組織化された。中標津でもサークルを組織化し、監視する。
- どこかで見ていると思えば、議員もキチンとする。

⑤議会だより

- 広報誌とは連動していない。
- 関心があるのは、「質問」である。

⑥親しみやすい議会づくり

- 「子ども議会」（教委が主催していた）を開催していた時は、父母が見に来たので満席だった。（5年前くらい？）
- 現在は、社会見学の間として小学生の見学が多い。
- 気軽に行ける議場や分かりやすく仕組みを教えるなどの、親しみやすい議会を作る場づくりが必要。

⑦未来への議員づくりについて

- 未来の議員づくりに向けて、仕掛けを作る。
- 議員の仕事を、高校生などに見せる場をつくる。

■全体として共有された意見

- 「議会改革特別委員会」で話し合っている内容を、町民に示してほしい。
- 自分たちが選んだ議員なのだから、町民側からの働きかけが必要。それが「議員提案」などにつながっていくのではないか。
- パートナーシップ推進研究会としては、議会に興味を持った人が一人でも二人でも構わないので、道筋をつけていくこと、導けるシステムが必要であり大事である。
- まちづくりの拠点が開催して、議会や議員とのさまざまな取り組みを行なう。仕掛けを作れるような拠点、一人の思いつきが具体になるような場所と運営団体が必要。